

8月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	●下弦の月	●新月	●上弦の月	○満月
見える日	5日	11日	18日	26日

惑星

水星 ●	金星 ●	火星 ●	木星 ●	土星 ●
下旬ごろ、明け方の東の低空に見える。 (明るさ 2.1 → -0.6等級)	夕方の西の空に見える (明るさ-4.2 → -4.4等級)	夜9時頃、南東の空に見える (明るさ-2.7 → -2.3等級)	日没後、南西の空に見える (明るさ-2.1 → -2.0等級)	夜9時ごろ、南の空に見える (明るさ0.1→0.2等級)

天文館夜間天体観望会 8月の見もの天体

○いて座の球状星団「M22」

夏の時期は、無数の星がボール状に集まった「球状星団」という天体をたくさん見ることができます。これらの天体は、天の川銀河本体の周辺にあるハローと呼ばれる領域に存在し、古い星々で構成される星団なのですが、その成り立ちなど、詳しいことはまだまだ分かっていません。

さて、そのように謎めいた天体である球状星団ですが、天体望遠鏡で観察すると、息を飲むほど見事な姿で観察することができます。こちらの球状星団「M22」は夏に見えるものとしては、ヘルクス座の「M13」に次いで2番目に大きな球状星団ですが、密度度が少し低いせいで、星の粒を良く観察することができます。ただし、南に低い天体ですので、空の状態によって見え方が左右されますので、この天体はできるだけすっきりと低空まで晴れた日にご覧になるのが良いでしょう。



今月の天文現象

8月12日(日)～13日(月) 今年のペルセウス座流星群は最高条件



8月12日午後11時頃北東の空

8月12日の夜から13日に明け方にかけて、ペルセウス座流星群がピークを迎えます。この流星群は、毎年安定して見られる流星群で、夜空の暗いところでは1時間あたり50個程度の流れ星が見られます。今年は11日が新月のため、条件的には最高で、天気さえ良ければ流星ショーを一晩中楽しむことができます。

ところで、一般の方々から「何時ごろ、どちらの空を見ればよいか?」という質問を多くいただきます。簡単に申し上げると、「8月12日、もしくは13日の夜であれば、いつ、どちらの方向を見ても良い。」ということになります。かなり中途半端なお答えとなりますが、流れ星は、いつ、どこに流れるかわかりませんので、どうしてもこのようなお答えになってしまいます。ただ、少しでも流れ星が見られる確率を上げようと思えば、今年のピークは13日の午前10時ごろと考えられていますので、観察するなら13日の午前1時から午前4時頃の間が一番良いかもしれません。

また、一方向だけを見るのではなく、できるだけ空の広い範囲を見ていた方が、当然、流れ星も見られる確率が上がります。そのため、地面に寝転がるなどして、できるだけ空の広い範囲を見るようにして下さい。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600